



# 学びの庭

## 学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図り、  
児童一人一人のよさと可能性を伸ばす。

〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町491番地 電話 055-233-2447 FAX 055-233-2451 E-mail: tamamoro-e@es-jhs.kai.ed.jp

創立 明治5年  
1872年

令和5年(2023年)7月19日

発行責任者 校長 山本英寿

## 1学期末を迎えて子供たちの姿に想う

涼しげな風鈴の音が聞こえる季節となりました。新年度がスタートして早4か月、明日の終業式をもって71日間(1年生は72日間)の1学期が終わります。

入学式、修学旅行、林間学校、春の校外学習、フェスティバルたまもろなど、様々な学校行事や児童会活動、また、日々の学校生活の中で子供たちの成長を感じることができた1学期でした。個を響かせ合いながら成長していく子供たちを見て、思い出したテレビ広告があります。

＋ ー × ÷

「＋」は、たすけあう 「ー」は、ひきうける

「×」は、声をかける 「÷」は、わけあう

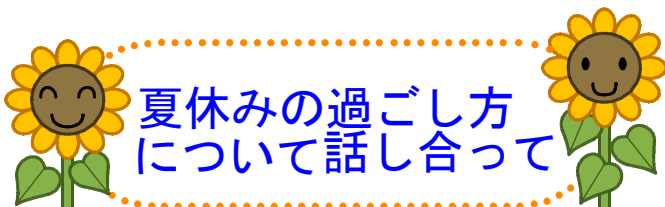
それは、人を笑顔にする算数 思いやり算。

困っている友達がいたら、助け合い、損な場面は笑顔で引き受け、よく声をかけ合い、喜びも苦しみも分かち合う、思いやり算。人と人との間には、「人を笑顔にする算数」・・・「人を笑顔にする力」が備わっていることを、子供たちの姿をみて日々感じます。子供たち一人一人の「人を笑顔にする力」を今後も育てていきます。この1学期、保護者の皆様、地域の皆様、ご支援・ご協力、大変ありがとうございました。2学期もよろしく願いいたします。



(水泳学習の様子)

玉諸小ブログ2023や  
学校だよりのHP版  
をご覧ください。



## 夏休みの過ごし方 について話し合っ

子供たちが楽しみにしている夏休みに入ります。この夏休みが子供たち一人一人にとって有意義なものになるように、学校では1学期の生活の様子や学習の定着の様子を振り返り、各学年の実態に応じて夏休みの過ごし方について指導を行いました。

学習課題、健康の保持・増進、交通安全などの指導を行いました。子供たちの生活の場が「学校」から「家庭・地域」へと移る夏休みは、家庭での指導が、より大切になります。子供たちといっしょに夏休みの過ごし方について、ぜひ時間をつくって話し合ってください。



児童会(あいさつ運動の様子)



## 普段できない 経験・体験を

子供たちにとって、長い夏休みは普段できない様々な経験・体験をする絶好の機会です。保護者の皆様にとって、成長しつつある子供たちの姿を改めて実感できるよい機会となります。子供たちが有意義な体験活動や読書に取り組む等、子供たちが興味をもつことに挑戦できるよう励ましてほしいと思います。また、子供たちに家族の一員という自覚をもたせると共に、これまで以上に親子の相互理解を深め、絆を強めていただきたいと思います。夏休み明けに、一段とたくましくなって元気に登校してくる子供たちに会えることを楽しみにしています。



(連合音楽会の取組の様子)

## 無言清掃で心もピカピカ!

本校では、今年度も無言清掃に取り組んでいます。この取組の目的は、児童の①「黙って集中して活動する力」②「自分で考え、行動できる力」③「きれいな環境から、豊かな心」を育てることです。各教室を見ていると、学年に関係なくどの児童も真剣に取り組んでいる姿が印象的です。最近では、無言で隅々までしっかりと掃除をしている児童の姿も目立ちます。この間、校内巡視をしていると次のような場面が見られました。「今から無言清掃を始めます」の挨拶から始まり、事前に決めた分担や手順にしたがって、黙々と掃除を進めていきます。一通り掃除が終わると、「プラスワン清掃」を行います。ふだん掃除できないところや汚れのひどいところをきれいにします。終わりのチャイムが鳴ると、反省会を行って清掃終了です。

清掃中、静かに時間が流れます。だから、「ありがとう」「きれいになったね」「しっかりできているね」という言葉を無言清掃のじゃまにならないように小さな声で子供たちに伝えていきます。無言で清掃を行うことで、心まできれいになることを願っています。



【無言清掃の様子】

### ●「自分大好き」な子供に育てるために ～自己肯定感を育む～

「日本の子供たちは、米中韓と比べて自己肯定感が低い」という記事を目にしました。自己肯定感とは、「自分が好き」「自分には良いところがある」、もっと言えば「自分には存在価値があり、世の中や、他の人にとって必要な人間だ」と思える気持ちです。こうした気持ちは、人間にとって、やる気を持って行動を起こしたり、様々な困難を乗り越えて生きたりしていく際に、とても大切な心のあり方です。では、この自己肯定感を育てるためには、どうしたらよいのでしょうか。難しく考える必要はありません。日常生活の中で、ささやかな積み重ねを大切にしていきましょう。



児童会(いいところおしらせ実セッション)

たとえば…

- ・スキンシップをとる。(高学年であってもハグする。頭をなでてやる。)
  - ・一緒に食事(おやつ)をする。準備や片づけなども一緒にする。(会話をしながら。)
  - ・家事をしながら課題の音読を聞いてやり、一言ほめる。「この部分の読み方が上手になったね。」「登場人物の気持ちがよく伝わってきたよ。」…等
  - ・割り当てたお手伝いをやってくれた時も、「ありがとう。助かった。」の一言を！  
(「やって当たり前でしょ!」は禁句。少々難点があっても目をつぶる。)
  - ・習い事やおけいこ事について、頑張っていることをほめる。  
→練習や試合、発表会などを見聞きし、頑張りや努力をほめる。
  - ・学校での様子を話題に！  
⇒前の晩または当日の朝、「今日(明日)は、〇〇の授業で□□するんだね。楽しみだね。」  
→帰宅後、「今日〇〇の授業どうだった？」等、具体的な声掛けを！
- \* 上の子、下の子、皆同じように、それぞれの良さ・特性をきちんと強調して、声を掛ける。ほめる。  
(結果だけでなく、過程も大事に。)

日々の小さな頑張りを見つけ、ほめ続けることで、子供の心は変わっていき、自信や感謝の気持ちが生まれてきます。自信は困難に挑戦するたくましさを育て、感謝の気持ちは人を大切にする思いやりの心を育てます。つまり、「自分大好き」になれば「友達大好き」「家族大好き」になり、「学校大好き」「地域大好き」となり、よりよい社会へ… とつながっていきます。自己肯定感はその根本となる大切なものです。「子供の良いところを見逃さずにほめること」「結果だけでなく、その子の小さな頑張りほめ続けること」を、学校でも取り組んで参ります。夏休みは、それをご家庭で高める最大のチャンスです。小さな成長を楽しみながら、愛情たっぷりに育てていしましょう。

